

令和9年度長崎県公立学校  
教員採用選考第1次試験問題

教科・科目

中学 国語

受験番号

氏名

実施日 令和8年5月10日（日）

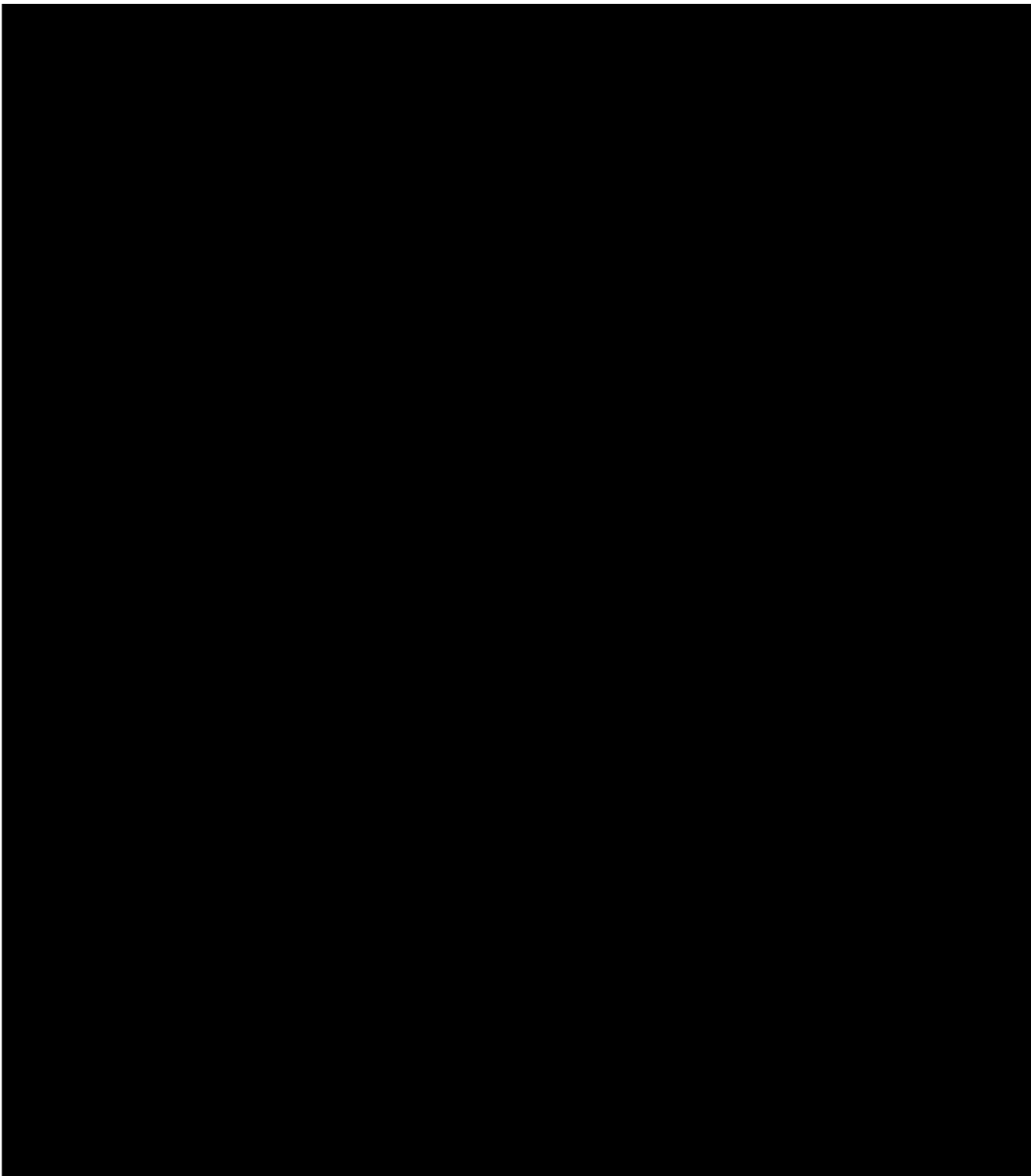


国語

- ※ 解答はすべて解答用紙の該当欄に記入すること。
- ※ 字数制限のある問題では、句読点やかっこも字数に含む。

一

次の文章は巖田清一『哲学の使い方』の一部である。これを読んで、後の問いに答えよ。



※1 第一章……著者は、第一章で次のように述べている。括弧内、本文引用。

「じぶんにとってあたりまえのことに疑いを向け、他者の意見によつてみずからのそれを採みながら、ああでもない、こうでもない、あくまで論理的に問いを問いつづけるそのプロセスを歩み抜くには、ちょうど無呼吸のまま潜水をしつづけるときのような肺活量が要るのである。あるいは、思考のたぬといつてもいい。さらにそれは、すぐにはわからないことにわからないままつきあう思考の体力といいかえてもいいし、すぐには解消されない葛藤の前でその葛藤に晒されつづける耐性といつてもいい。」

※2 サステイナ……sustain。英語、他動詞。「維持する」「持続させる」などの意。サステイナビリティー (sustainability) は、sustainable の名詞形。「持続可能性」の意。

問一 波線部 a ～ c のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 A ～ C に入る語の組合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- |   |   |    |   |    |   |    |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ア | A | 一律 | B | 払底 | C | 無視 |
| イ | A | 各様 | B | 放埒 | C | 奨励 |
| ウ | A | 雑多 | B | 劣化 | C | 嫌悪 |
| エ | A | 一様 | B | 欠如 | C | 忌避 |
| オ | A | 均一 | B | 停滞 | C | 重視 |

問三 空欄 I ～ III に入る語の組合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- |   |   |      |    |      |     |      |
|---|---|------|----|------|-----|------|
| ア | I | よって  | II | だから  | III | なぜなら |
| イ | I | しかるに | II | けれども | III | すなわち |
| ウ | I | だから  | II | しかし  | III | さらには |
| エ | I | さらには | II | すなわち | III | たとえば |
| オ | I | すなわち | II | つまり  | III | しかも  |

問四 傍線部①について、筆者は、現実の問題への対処においてイデオロギーをどのようなものとして捉えているか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア イデオロギーとはだれも正面きって反対できない思想であり、重要な問題について根拠や意味を問いつめることなく、人をしてわかりやすい論理に飛びつかせるおそれがある。
- イ イデオロギーとはだれも正面きって反対できない思想であり、それに基づき根拠や意義を問いつめることにより、「安心・安全」や「公共性」など、重要な概念を生み出している。
- ウ イデオロギーとはだれも正面きって反対できない思想であり、広く一般に受け入れられていることで、重要な社会問題が顕在化してしまう可能性がある。
- エ イデオロギーとはだれも正面きって反対できない思想であり、普遍的な価値を内包しているため、「サステイナビリティ」や「多様性」などの概念の論理的支柱となっている。
- オ イデオロギーとはだれも正面きって反対できない思想であり、重要な社会問題につき多くの人々の関心を引きつけ、複雑な議論に明確な方向付けを行っている。

問五 傍線部②について、「肺活量」とは、思考に関する筆者の説明において何を意味しているのか。本文中の言葉を用い、八十字以内で説明せよ。

問六 傍線部③について、筆者がこのように考える理由を百字以内で説明せよ。

問七 傍線部④について、筆者がこのように考える理由の説明として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

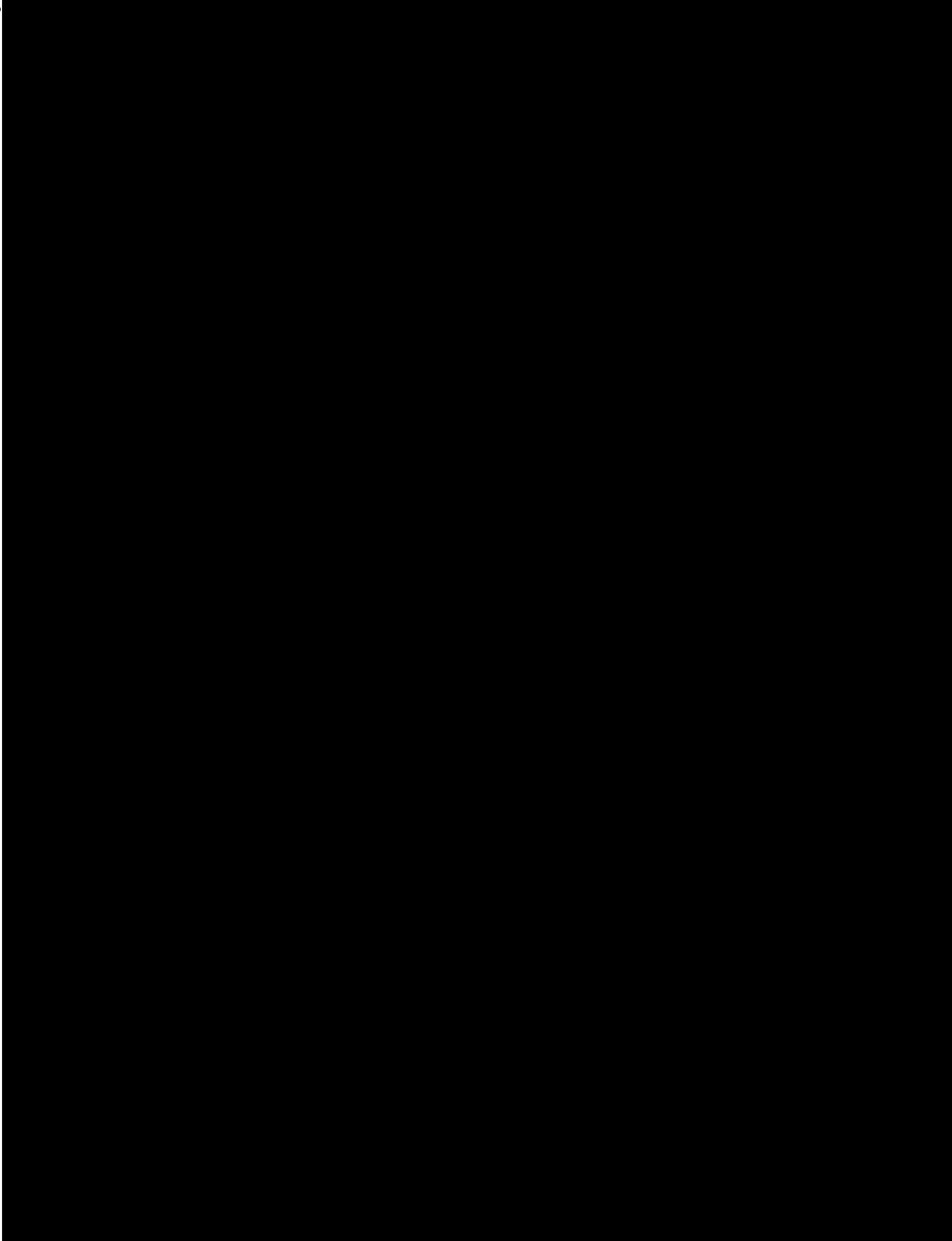
- ア 一つの問題は他の問題とも関連し合っており、ある問題に見出した答えが他の問題に波及し、すべてのことから根底から問いなおさなければならなくなることがあるから。
- イ ある時期、ある状況下でわからなかったことが、その後、状況も変化し、自分自身も知識や経験を積み重ねる中で理解できるようになることがあるから。
- ウ 関連し合うさまざまな問題に取り組んでゆく過程では、単純に理解が深まっていくのではなく、内なる抵抗が幾度も起る経験を繰り返しながら、ジグザグに理解が深まっていくから。
- エ 若年時には人生の根本問題として思い悩んでいたものが、年齢を重ねるにつれ、それらは成長の一段階の問題であり、もはや問題ではなくなることもあるから。
- オ 問題に取り組む際に、議論の隠れた前提となっていることがらが明らかにされず、問題の設定そのものを見なおさなければならない場合があるから。

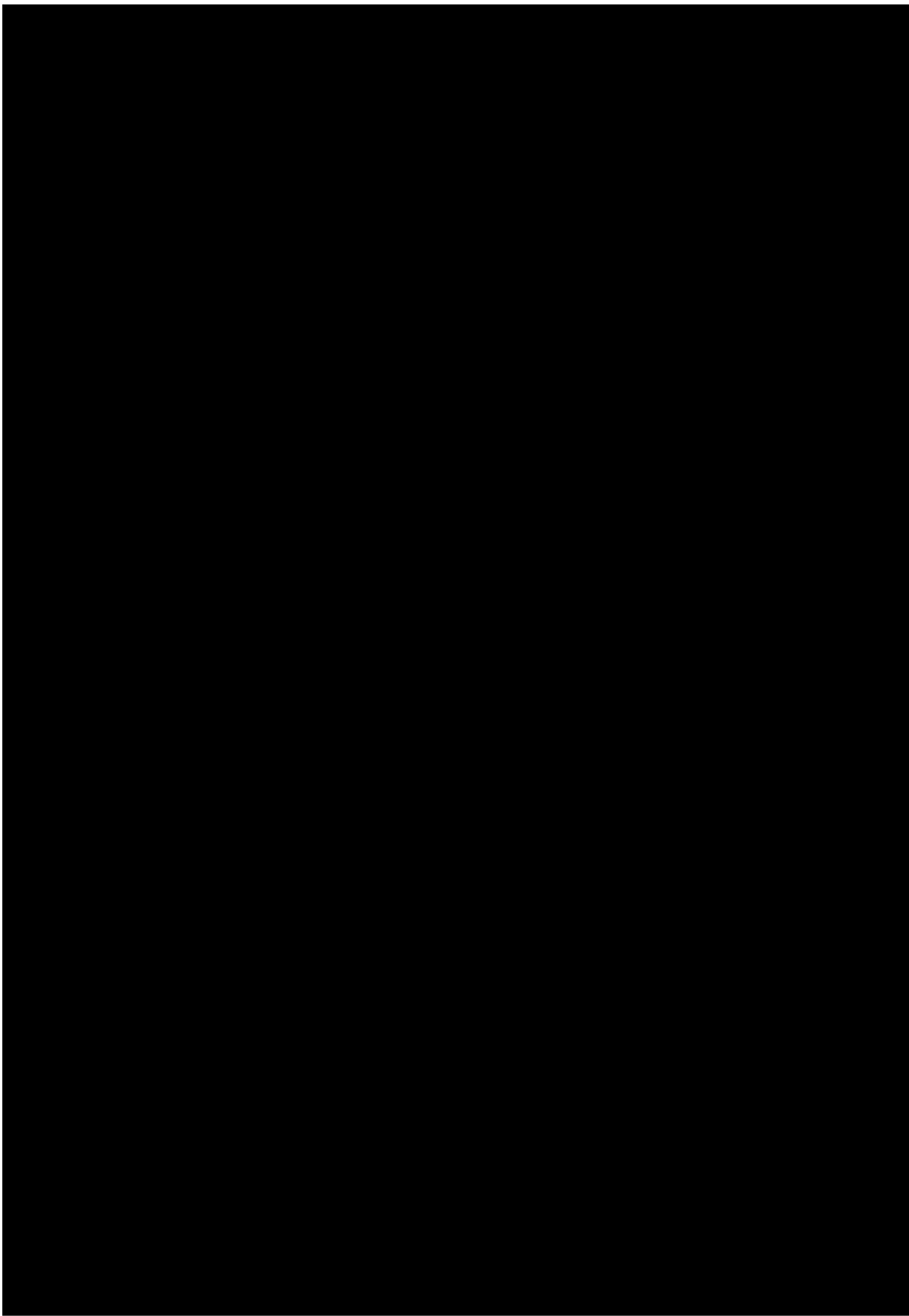
問八 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 「サステイナビリテイ」や「多様性」など、現在、社会で流通し唱和されている概念の多くは、わかりやすい論理を偽装する物語を拠り所としており、それらに対しては、ものごとを根本から捉える哲学的思考が求められる。
- イ 哲学の立場から現実の問題に関わる場合、意志決定を行うために「ぐずぐず」と思い悩むことは必要かつ正当な行為であり、わかりやすい理論に流されがちな現代においては、それは決してなおざりにされてはならないと考える。
- ウ 現実の問題に対する哲学的思考は、社会においてだれもがあたりまえと考えることからしてその理非を問いなおすことから始まり、問題の複雑性を解き明かすためには時間的経過も必要とされるため、ぐずぐずと思い悩むことは不可避であり、一種の必要悪でもある。
- エ 哲学の立場から現実の問題に関わろうとするとき、問題の前提を明らかにし、それについての異なる意見も聞き、それらをじっくり折り合わせてゆくなかで理論を構成してゆく必要があり、そのためにはわかりやすい理論を積極的に追究してゆくことが重要である。
- オ 現代では社会問題がますます複雑化しているとともに、その速やかな解決のために迅速な判断や答えを求められることも多く、結論を急がず、じぶんをニュートラルにし、あれこれと思い悩む行為は、その意義と必要性が問われるべきである。

二

次の文章は三浦哲郎『みちづれ』の一部である。これを読んで、後の問いに答えよ。







※1 跨線橋……鉄道線路の上に架け渡した陸橋。

※2 羅紗……毛織物の一種。厚地で、織り目が見えないように収縮・起毛などの加工仕上げをしたもの。

問一 波線部 a ～ c の漢字の読みをひらがなで書け。

問二 傍線部①について、「彼」が妙な気がしたのはなぜか。「おなじ船」「おなじ花の紙筒」という表現を踏まえ、八十字以内で説明せよ。

問三 傍線部②について、この言葉の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 状況の変化がのみこめず、不安に思うさま。
- イ 新奇なものに接し、興味をかきたてられるさま。
- ウ 理由や事情がわからず、いぶかしく不思議に思うさま。
- エ 自分の失態に気づき、それを恥じるさま。
- オ 自分の意に反する事態に遭遇し、不快に思うさま。

問四 傍線部③について、このときの「彼」の心情の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 雪道で転倒した老婦人に助けの手をさしのべたが、老婦人に同情や手助けのたぐいは一切拒否しようという頑な意志を感じ、自分の気遣いが老婦人に伝わらないことに落胆している。
- イ 雪道で転倒した老婦人に助けの手をさしのべようとしたが固辞され、見かねて、手を伸ばすと、さらに拒否され、この老婦人にはこれ以上かかわらない方がよいと思っている。
- ウ 雪道で転倒した老婦人に繰り返し助けの手をさしのべようとしたが、同情や手助けのたぐいは一切拒否しようとしており、聞く耳を持たない老婦人の頑迷な態度に辟易としている。
- エ 雪道で転倒した老婦人に助けの手をさしのべ、何とか老婦人と知り合う切っ掛けを作ろうとしたが、老婦人に他人とのかかわりを拒否する強い意志を感じ、あきらめの心境に陥っている。
- オ 雪道で転倒した老婦人に親切心から助けの手をさしのべたにもかかわらず、老婦人から非礼な言葉で強く拒否され、老婦人の態度に抑えがたい怒りを覚えている。

問五 傍線部④について、「彼」の「墓参り」に関する記述として 適当でないもの を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 肉親のひとりとは連絡船から海峡に身を投げ、その遺体は遂に揚がらなかったため、「彼」はその海峡を墓場と見なしている。
- イ 「墓参り」では、海峡のまんなかあたりで連絡船から花を落すこととしており、それは、連絡船が出港してから二時間を過ぎた後である。
- ウ 海峡の下をくぐり抜けるトンネルが完成したことにより連絡船も廃止されることになっており、「彼」の「墓参り」もこれが最後となる。
- エ 郷里から遠く離れて暮らす「彼」は、時間と費用をどうにかやりくりし、準備が整いし、年に数回、肉親のひとりが身を投げた海峡を訪れることにしている。
- オ 「墓参り」では、連絡船の最上階のデッキに昇り、巨大な煙架のすぐそばにあるふなべりから海峡に花を落すことをならわしとしている。

問六 傍線部⑤について、「彼」が思わず立ち止まりそうになったのはなぜか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 肉親の「墓参り」は自分だけのさきやかなならわしとしてきたが、自分の死んだ母親もきつと同じように慰霊を行いたかったに違いないと、いまさらながら気付いたから。

イ うつむき加減にひっそりと正坐している老婦人の姿に自分の死んだ母親を重ねる中で、老婦人が紙筒を持って海峡を訪れたのも、きつと肉親の慰霊のために違いないと、ふと思いついたため。

ウ 「彼」の肉親のひとりが海峡に身を投じて命を捨てたのは、もう何十年も前のことだが、老婦人の姿から自分の死んだ母親を思い出し、当時の家族の悲哀が改めて想起されたから。

エ 自分の死んだ母の、ひとりでなにかじつと耐えていた姿から老婦人の心情を汲み取ることができたが、そこになにか不思議な霊的なはたらきを感じたから。

オ この海峡で命を捨てた人は大勢おり、ひとりもの思いに沈んでいる老婦人も、ひよっとしたら海峡へ身を投じてしまうのではないかとの懸念が脳裏をよぎったため。

問七 傍線部⑥について、「みちづれを見るような親しみ」とはどのような親しみか。五十字以内で説明せよ。

問八 本文の内容や表現について説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 20行目から21行目の「目の前の焦茶色が、不意に沈んだ」という描写は、「彼」が老婦人に関心をもつのは焦茶色の帽子的せいであることを写実的に表現している。

イ 39行目から40行目の「窓の正面に船首がくるとシャッターの音が高まった」という描写は、連絡船の撮影は出港準備が整ってからのみ許可されていることを暗示的に表現している。

ウ 55行目の「やがて取り毀されることになるかもしれない待合室のなかをふらふら歩く」という描写は、これで「墓参り」が最後となる「彼」の投げやりな気持ちを直截的に表現している。

エ 75行目の「彼は浮かしかけていた腰を落ち着けた」という描写は、老婦人に先を越された「彼」の鬱屈感を客観的に表現している。

オ 87行目の「老婦人は手ぶらになっていて」という描写は、紙筒を海に投じ慰霊を果たした老婦人の安堵感を間接的に表現している。

次の文章は『住吉物語』の一部である。これを読んで、後の問いに答えよ。

「姫君」に思慕の情を募らせる「少将」は、たびたび求愛の手紙を送るが、「姫君」に拒み続けられている。悲嘆に暮れる中、「少将」は、その年の正月の司召して中将に昇進した。一方、「姫君」は、継母から執拗に冷遇され、ついには継母の悪巧みから逃れるために、「侍従」とともに身を隠してしまう。「姫君」の突然の失踪を知った「中将」は、「姫君」の居場所を探し出すために神仏の靈験に頼ろうとする。本文は、「中将」が長谷寺に参籠するところから始まる。なお、「姫君」と「侍従」は、「少将」が中将に昇進したことをまだ知らない。

春秋過ぎて、九月ばかりに<sup>※1</sup>初瀬に籠りて、七日といふ、<sup>A</sup>夜もすから行ひて、暁かたに少しまどろみたる夢に、やんことなき女、そばむきて居たり。さし寄りて見れば、わが思ふ人なり。うれしき、せんかたなくて、「いつくにおはしますにか。かくいみじきめを見せ給ふぞ。いかばかりか思ひ嘆くと知り給へる。」と言へば、うち泣きて、「かくまどとは思はざりしを。いとあはれにぞ。」と言ひて、「今は帰<sup>a</sup>りなん。」と言へば、袖をひかへて、「おはしまし所、知らせさせ給へ。」とのたまへば、

<sup>※2</sup>X わたつ海のそことも知らずわびぬれば住吉と、<sup>※3</sup>そあまは言ひけれ

と言ひて立つを、ひかへて返さずと見て、うちおどろきて、<sup>①</sup>夢と知りせばと、悲しかりけり。

さて、仏の御するしごとて、夜のうちに<sup>②</sup>出でて、住吉といふ所尋ねみんとて、御供なる者に、「精進のついでに、<sup>※4</sup>天王寺、<sup>※5</sup>住吉などに参らんと思ふなり。おのおの帰りて、この由を申せ。」と仰せられければ、「いかに、御供の人なくては侍るべき。捨て参らせて参りたらんに、よきこと候ひなんや。」と慕ひあひけれども、「示現をかうふりたれば、そのままになん。ことさらに、思ふやうあり。言はんままたであるべし。いかに言ふとも、具すまじきぞ。」とし、御隨身一人ばかりを具して、<sup>③</sup>浄衣のなえらかなるに、薄色の衣に白き単着て、<sup>④</sup>藁沓、<sup>※6</sup>脛巾して、<sup>※7</sup>竜田山越え行き、隠れ給ひにければ、聞こえわづらひて、御供の者は帰りにけり。

住吉には、その暁、姫君の、御跡に臥したる侍従にのたまふやう、「まどろみたりつる夢に、少将のたまふやう、心細かりつる山の中に、ただひとり草枕して、起き臥し給ふ所に行きつれば、我を見つけて、袖をひかへて、

<sup>Y</sup> 尋ねかね深き山路に迷ふかな君が住みかをそこと知らせよ

となんありつる。」と、あはれに語り給へば、侍従、「げにいかに思ひ嘆き、<sup>⑤</sup>給ふらん。まことの御夢にこそ侍れ。あはれとおぼさずや。」と<sup>⑥</sup>問ひゆれば、「石木ならねば、いかでか。」など言ひつつ、あはれげにおぼしたりけり。

中将は、ならば<sup>b</sup>ぬきまなれば、藁沓にあたりて、足より血落<sup>あ</sup>えり。行きやらぬ気色なれば、道行き人、<sup>B</sup>あやしき者ども、目をつけてぞ見合ひける。

※1 初瀬……奈良県桜井市にある長谷寺。

※2 わたつ海……ここでは、海、大海、海原の意。

※3 あま……ここでは、漁師、漁夫の意。

※4 天王寺……大阪市天王寺区にある四天王寺。

※5 住吉……ここでは、大阪市住吉区にある住吉大社を指す。

※6 脛巾……すねに巻きつけ、足を保護する布。

※7 竜田山……奈良県生駒郡辺りにある山。奈良と大阪を結ぶ交通の要衝。

問一 波線部 A・B の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| <b>A</b> 夜もすがら | <b>B</b> あやしき者ども |
| ア 一晩じゅう        | ア 奇異な者たち         |
| イ 深夜まで         | イ 不審な者たち         |
| ウ 連日連夜         | ウ 身分の低い者たち       |
| エ 宵の口から        | エ 素性の知れない者たち     |

問二 本文中の **a** な・**b** ぬ と文法的に同じものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| <b>a</b> 今は帰る <b>な</b> ん。 | <b>b</b> ならば <b>ぬ</b> きまなれば、 |
| ア 世の中を憂しと思ひて、出でていなむ。      | ア 今年の秋もいぬめり。                 |
| イ かたちよりは心なむまさりたりける。       | イ 鶯の鳴かぬかぎりはあらじと思ふ。           |
| ウ 今ひとたびのみゆき待たなむ。          | ウ 歎きつつひとりぬる夜の明くる間は           |
| エ 暁にはとく下りなむといそがるる。        | エ 雷落ちかかりぬべし。                 |

問三 二重傍線部 I、II の敬語は誰に対する敬意を表しているか。次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア 姫君    イ 侍従    ウ 中将 (＝少将)    エ 御隨身

問四 傍線部①について、そのときの中将の心情の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 夢で会った姫君が、姫君に会えないことを嘆いている自分に深く同情していることがわかったが、それはあくまで夢の中でのことであると悲しんでいる。
- イ 夢であるとわかっていただけなら目を覚まさずにいたであらうに思ふが、実際には、姫君に会った夢は覚めてしまい、悲しんでいる。
- ウ 夢で姫君に会えたことはとてもうれしかったが、実際には姫君と会う手掛かりもなく、淡い夢とつらい現実との乖離を悲しんでいる。
- エ 夢であるとわかっていただけなら、姫君に会えずにいるつらい思いを訴えることもなかつたらうに思ふが、夢の中で嘆いた自分を悲しく思っている。
- オ 夢で会った姫君に対し居場所をおしえてほしいと懇願したが、姫君が袖を振り払って去ってしまい、夢の中の出来事であるとは知りつつも、悲しく思っている。

問五 傍線部②について、中将がそのように思ったのはなぜか。七十字以内で説明せよ。

問六 傍線部③を必要な言葉を補って現代語訳せよ。

問七 和歌X・Yの説明として最も<sup>きつ</sup>適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア Xでは、「そと(底)」は「其処」の、「住吉」は「住み良し」の、それぞれ掛詞となっている。  
Yの「そと」はXの「そと(其処)」を受け、YはXの本歌取りとなっている。
- イ Xにおける「そと(底)」は「其処」の、「住吉」は「住み良し」の、それぞれ縁語である。Y  
の「そと」はXの「そと(其処)」を受け、XとYは問答歌となっている。
- ウ Xにおける「そと(底)」は「其処」をも意味し、見立ての表現が用いられている。Yの「そと」  
はXの「そと(其処)」を受け、XとYは問答歌となっている。
- エ Xでは、「そと(底)」は「其処」の、「住吉」は「住み良し」の、それぞれ掛詞となっている。  
Yの「そと」はXの「そと(其処)」を受け、XとYは問答歌となっている。
- オ Xにおける「そと(底)」は「其処」をも意味し、見立ての表現が用いられている。Yの「そと」  
はXの「そと(其処)」を受け、YはXの本歌取りとなっている。

## 四

次の文章は『孟子』の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。(ただし設問の都合上、返り点や送り仮名を省略した箇所がある。)

孟子曰、君子<sup>ノ</sup>所以<sup>ニ</sup>異<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>人<sup>一</sup>者、以<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>存<sup>ニ</sup>心<sup>ヲ</sup>也。君子<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>仁<sup>ヲ</sup>存<sup>シ</sup>心<sup>ヲ</sup>、以<sup>テ</sup>礼<sup>ヲ</sup>存<sup>ス</sup>心<sup>ヲ</sup>。仁者<sup>ハ</sup>愛<sup>シ</sup>人<sup>ヲ</sup>、有<sup>ル</sup>礼者<sup>ハ</sup>敬<sup>ス</sup>人<sup>ヲ</sup>。愛<sup>ス</sup>人<sup>者</sup>、人恒<sup>ニ</sup>愛<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>、敬<sup>ス</sup>人<sup>者</sup>、人恒<sup>ニ</sup>敬<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。有<sup>リ</sup>人<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>此<sup>一</sup>。其<sup>ノ</sup>待<sup>ツ</sup>我<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>横<sup>ニ</sup>逆<sup>一</sup>、則<sup>チ</sup>君子<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>自<sup>ラ</sup>反<sup>ス</sup>也。我<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>不<sup>レ</sup>仁<sup>也</sup>。必<sup>ズ</sup>無<sup>レ</sup>礼<sup>也</sup>。此<sup>ノ</sup>物奚<sup>ソ</sup>宜<sup>シ</sup>至<sup>ル</sup>哉。其<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>反<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>仁<sup>ナリ</sup>矣。自<sup>ラ</sup>反<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>有<sup>リ</sup>礼<sup>ナリ</sup>矣。其<sup>ノ</sup>横<sup>ニ</sup>逆<sup>一</sup>由<sup>レ</sup>是<sup>也</sup>、君子<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>自<sup>ラ</sup>反<sup>ス</sup>也。我<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>不<sup>レ</sup>忠<sup>也</sup>。自<sup>ラ</sup>反<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>忠<sup>ナリ</sup>矣。其<sup>ノ</sup>横<sup>ニ</sup>逆<sup>一</sup>由<sup>レ</sup>是<sup>也</sup>、君子<sup>曰</sup>、此<sup>亦</sup>妄<sup>也</sup>人<sup>也</sup>已<sup>矣</sup>。如<sup>レ</sup>此<sup>、</sup>則<sup>チ</sup>与<sup>ニ</sup>禽<sup>獸</sup>奚<sup>ソ</sup>択<sup>バ</sup>哉。於<sup>レ</sup>禽<sup>獸</sup>又<sup>ニ</sup>何<sup>ソ</sup>難<sup>シ</sup>焉。

※1 待……待遇する。あしらう。

※2 横逆……道理にさからって乱暴をすること。無理非道なこと。

※3 自反……自らを振り返り、反省する。

※4 忠……誠心。真心。

※5 妄人……無法な人間。

問一 二重傍線部 **a・b** の読みをひらがなで答えよ。(現代仮名遣いでもよい。)

問二 傍線部①について、「自反」の内容の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 無理非道を行う人に対し、自分はきつと不仁であったのであろう、礼を欠いていたのであろうと反省してみた結果、やはりそうであると認めざるをえないと思った。
- イ 無理非道を行う人に対し、自分は果たして不仁であったのか、礼を欠いていたのかと疑念を持たざるをえず、必ずしも自分が不仁であったり礼を欠いたりしていたとは言えないと思った。
- ウ 無理非道を強いられることはまったくいわれないことであり、自分が不仁であったか、礼を欠いていたかなどは、あまり問題にならないと思った。
- エ 無理非道を行う人に対し、自分はきつと不仁であったのであろう、礼を欠いていたのであろうと反省してみたが、自分は間違いなく仁や礼をもって接してきたと思った。
- オ 無理非道が行われることは、自分にも相手にも原因があると考えられ、自らを反省するとともに、相手にも自省を促すことが必要であると思った。

問三 傍線部②について、「そのわうぎやくなほかくのことくなるや」の読みになるように訓点を施せ。

問四 傍線部③について、この段階での「自反」の在り方はどのようなものであるのか。「仁」「礼」「忠」に触れながら、八十字以内で説明せよ。

問五 傍線部④を現代語訳せよ。

問六 傍線部⑤の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 無理非道を行う者は、鳥獣と同様に、仁や礼をわきまえず、とても待遇しにくい。
- イ 相手が鳥獣のような者ならば、非難するまでもなく、取り合わなければよい。
- ウ 無理非道を行う者に対しては、鳥獣にも劣る者としてあしらってあげばよい。
- エ 相手が鳥獣のような者ならば、仁や礼を理解させるのは極めて困難である。
- オ 相手は鳥獣のような者なので、その無理非道は大いに非難されるべきである。

令和九年度長崎県公立学校教員採用選考試験解答用紙

|    |    |    |   |   |   |    |   |   |   |     |       |    |    |      |        |   |
|----|----|----|---|---|---|----|---|---|---|-----|-------|----|----|------|--------|---|
|    |    |    |   |   |   |    |   |   |   | 25点 |       | 一  |    |      |        |   |
| 問八 | 問七 | 問六 |   |   |   | 問五 |   |   |   | 問四  | 問三    | 問二 | 問一 |      |        |   |
| イ  | オ  | む  | て | り | も | ひ  | け | り | 不 | 現   | ア     | ウ  | エ  | a    |        |   |
|    |    | プ  | も | 、 | と | と  | ら | つ | 確 | 実   |       |    |    | 挟(挿) |        |   |
|    |    | ロ  | ら | 他 | め | が  | れ | づ | か | の   |       |    |    | んで   |        |   |
|    |    | セ  | っ | 人 | ら | 重  | る | け | な | 問   |       |    |    | b    |        |   |
|    |    | ス  | た | の | れ | 要  | よ | る | 状 | 題   |       |    |    |      | 辛気(心気) |   |
|    |    | ③  | ③ | は | り | 意  | る | な | う | た   |       |    |    |      | 態      | に |
|    |    |    |   | 、 | し | 見  | と | 問 | に | め   |       |    |    |      | で      | 対 |
|    |    |    |   | 人 | な | を  | き | 題 | 思 | の   |       |    |    |      | い      | し |
|    |    |    |   | 生 | が | も  | 、 | に | 考 | 、   |       |    |    |      | つ      | 、 |
|    |    |    |   | そ | ら | と  | そ | つ | を | 無   |       |    |    |      | づ      | 複 |
|    |    |    |   | の | 、 | め  | れ | い | 続 | 呼   |       |    |    |      | け      | 雑 |
|    |    |    |   | も | 時 | た  | に | て | け | 吸   |       |    |    |      | 、      | 性 |
|    |    |    |   | の | 間 | り  | つ | 意 | ら | の   |       |    |    |      | 執      | の |
|    |    | と  | を | 、 | い | 見  | れ | ま | 拗 | 増   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | 言  | か | 他 | て | や  | る | ま | に | 大   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | え  | け | の | 情 | 意  | 力 | で | 論 | に   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | る  | て | 人 | 報 | 志  | ° | 潜 | 理 | 耐   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | か  | 思 | に | を | 決  |   | 水 | を | え   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | ら  | い | 聴 | 得 | 定  |   | を | た | つ   |       |    |    |      |        |   |
|    |    | °  | 悩 | い | た | を  |   | 続 | た | つ   |       |    |    |      |        |   |
|    |    |    |   |   |   |    |   |   |   |     | ③(各①) |    |    |      |        |   |
|    |    |    |   |   |   |    |   |   |   |     | ④     |    |    |      |        |   |
|    |    |    |   |   |   |    |   |   |   |     | ⑤     |    |    |      |        |   |

国語

受験番号

氏名

令和九年度長崎県公立学校教員採用選考試験解答用紙

|     |    |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |           |
|-----|----|---|---|----|----|----|----|----|---|---|---|-----------|
| 25点 |    |   |   |    |    |    |    |    |   |   | 二 |           |
| 問八  | 問七 |   |   | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 |   |   |   | 問一        |
| オ   | 見  | に | 肉 | イ  | エ  | ア  | ウ  | 自  | 自 | 筒 | 花 | a<br>さんばし |
|     | る  | 乗 | 親 |    |    |    |    | 分  | の | を | を |           |
|     | よ  | っ | の |    |    |    |    | と  | こ | 持 | 紙 |           |
|     | う  | て | 慰 |    |    |    |    | 同  | と | っ | で |           |
|     | な  | い | 霊 |    |    |    |    | じ  | と | て | す |           |
| ③   | 親  | る | と | ③  | ③  | ③  | ②  | こ  | 思 | 連 | っ | b<br>なご   |
|     | し  | 彼 | い |    |    |    |    | と  | っ | 絡 | ぼ |           |
|     | み  | に | う |    |    |    |    | を  | て | 船 | り |           |
|     | 。  | 対 | 共 |    |    |    |    | し  | い | に | 包 | り         |
|     |    | す | 通 |    |    |    |    | よ  | た | 乗 | み |           |
|     | ④  | る | の |    |    |    |    | う  | が | っ | 紙 | c<br>えしやく |
|     |    | 、 | 目 |    |    |    |    | と  | 、 | た | 筒 |           |
|     |    | 老 | 的 |    |    |    |    | し  | 見 | り | に |           |
|     |    | 婦 | を |    |    |    |    | て  | 知 | す | し |           |
|     |    | 人 | も |    |    |    |    | い  | ら | る | た |           |
|     |    | の | っ |    |    |    |    | る  | ぬ | の | り | ③(各①)     |
|     |    | 同 | て |    |    |    |    | か  | 老 | は | 、 |           |
|     |    | 行 | 連 |    |    |    |    | ら  | 婦 | 、 | そ |           |
|     |    | 者 | 絡 |    |    |    |    | 。  | 人 | 彼 | の |           |
|     |    | を | 船 |    |    |    |    |    | が | 独 | 紙 |           |

④

|      |
|------|
| 国語   |
| 受験番号 |
| 氏名   |

令和九年度長崎県公立学校教員採用選考試験解答用紙

|    |                              |    |   |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|----|------------------------------|----|---|-----------|-----|-----------|-----------|----|----|---|---|--|--|
|    |                              |    |   |           | 25点 |           |           | 三  |    |   |   |  |  |
| 問七 | 問六                           | 問五 |   |           |     | 問四        | 問三        | 問二 | 問一 |   |   |  |  |
| エ  | 仏の靈験をいただいたので、そのとおりにしよう。<br>④ | 思  | い | た         | 夢   | イ         | I         | a  | A  |   |   |  |  |
|    |                              | っ  | 、 | の         | に   |           | ③         | ウ  | エ  | ア |   |  |  |
|    |                              | た  | 住 | で         | 姫   |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    |                              | か  | 吉 | 、         | 君   |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    |                              | ら  | を | 中         | が   |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    |                              | 。  | 尋 | 将         | 現   | ④<br>（各②） | II        | b  | B  |   |   |  |  |
|    |                              |    | ね | は         | れ   |           | ④<br>（各②） | ア  | イ  | ウ |   |  |  |
|    |                              |    | れ | 、         | 、   |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    |                              |    | ば | こ         | 住   |           |           |    |    |   | ⑤ |  |  |
|    |                              |    | 、 | れ         | 吉   |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | き                            | は  | と |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | っ                            | 仏  | い |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | と                            | の  | う | ②<br>（各①） |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | 姫                            | 靈  | 所 |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | 君                            | 験  | に |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | に                            | で  | い |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | 会                            | あ  | る | ④         |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | え                            | る  | と |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | る                            | と  | 言 |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |
|    | と                            | 思  | っ |           |     |           |           |    |    |   |   |  |  |

|      |
|------|
| 国語   |
| 受験番号 |
| 氏名   |

令和九年度長崎県公立学校教員採用選考試験解答用紙

|    |      |    |
|----|------|----|
| 国語 | 受験番号 |    |
|    |      | 氏名 |

|    |                        |     |   |   |       |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|----|------------------------|-----|---|---|-------|---|-------|-----|-------|--------|-------|---|-------|----|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
|    |                        | 25点 |   |   |       | 四   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
| 問六 | 問五                     | 問四  |   |   |       | 問三  | 問二    | 問一  |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
| イ  | 鳥獸とどこが異なるのだろうか。鳥獸も同然だ。 | な   | 合 | も | 仁     | 其 <sup>ノ</sup> 横 <sup>レ</sup> 逆 <sup>ホ</sup> 由 <sup>ク</sup> 是 <sup>ク</sup> 也、 | エ     | a   |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | い   | に | 、 | に     |   |       | クナル | ③     | ゆゑ(え)ん |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | の   | は | 相 | よ     |   |       |     |       | ④      | ④(各②) | b |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | だ   | 、 | 手 | る     |   |       |     |       |        |       | ④ | ④(各②) | のみ |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | ろ   | 自 | が | 愛     |   |       |     |       |        |       |   |       | ④  | ④(各②) |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | う   | 分 | 相 | 情     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       | ④ | ④(各②) |   |       |   |       |
|    |                        | と   | は | 変 | や     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       | ④ | ④(各②) |   |       |
|    |                        | 、   | き | わ | 礼     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       | ④ | ④(各②) |
|    |                        | 重   | っ | ら | に     |   | ④     |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | ね   | と | ず | よ     |   |       | ④   | ④(各②) |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | て   | そ | 無 | る     |   |       |     |       | ④      | ④(各②) |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | 反   | れ | 理 | 敬     |   |       |     |       |        |       | ④ | ④(各②) |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | 省   | を | 非 | 意     |   |       |     |       |        |       |   |       | ④  | ④(各②) |   |       |   |       |   |       |
|    |                        | す   | 行 | 道 | を     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       | ④ | ④(各②) |   |       |   |       |
|    |                        | る   | う | を | も     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       | ④ | ④(各②) |   |       |
|    |                        | 。   | 誠 | 繰 | っ     |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       | ④ | ④(各②) |
|    | 心                      | り   | て | ④ | ④(各②) |   |       |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    | が                      | 返   | 接 |   |       | ④   | ④(各②) |     |       |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    | 足                      | す   | し |   |       |   |       | ④   | ④(各②) |        |       |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |
|    | り                      | 場   | て |   |       |   |       |     |       | ④      | ④(各②) |   |       |    |       |   |       |   |       |   |       |